



 株式会社アルファシステムズ

証券コード:4719

「実現する力」をさらに強化し、 社会インフラの発展に貢献していく

Q 1 中間期の業績と通期の 見通しについてお聞かせください。

急な環境変化に対応し、中間期は概ね計画通り

一部の大型案件で開発計画の変更があり、急遽4月以降の開発体制が縮小したことから、一時的な稼働減が発生し、厳しい状況でのスタートになりました。しかし、積極的な営業展開や組織の枠を超えた連携を強化したことで、中間期の業績は概ね計画通りとなりました。

事業環境は好調、 下半期も着実にプロジェクト進行に努める

先ほど述べた一部の大型案件による影響はありましたが、業界全体としてはIT投資に対する需要は豊富であるため、事業環境は概ね良好です。今年度は下半期から開発が本格化し、開発体制が拡大するプロジェクトが多いことから、開発を着実に進行させ、目標達成を目指してまいります。

Q 2 経営戦略の方向性について お聞かせください。

社会インフラを支える企業として成長を追求

ITモダナイゼーション、企業DXにより、市場が拡大する中、当社の強みであるプロパー主義の開発体制を活かして、社会インフラを支える企業として成長することを、中長期的な方針としています。

生成AIが実用段階に入ったことを ビジネスチャンスに活かす

そして、最新の事業環境を踏まえて、方針をアップデートしていきます。

現在、通信システムにおいては、「5G」や「IOWN」に関連する新規プロジェクトの受注が部分的に先送りになっていますが、一方で、オープンシステムについては、通信事業者の非通信事業が活発化してきており、公共、流通・サービス、金融の各分野も、好調に推移しています。

さらに現在、生成AIが急速に実用段階に入ったこ

とから、様々な企業で仕事の仕方に変化が生じることが予想されます。当社はこれを新たなビジネスチャンスとして取り組んでいきます。

Q 3 具体的な戦略について お聞かせください。

システム開発事業の基盤拡大： クラウド、アジャイル開発、生成AIに注力し、 上流工程進出にも挑戦

システム開発においては、通信システムに加え、オープンシステムの流通・サービス、公共という主力3分野の事業拡大、そして、次なる成長エンジンとして、オープンシステムの金融と情報通信、さらに組み込みシステムの3分野の確立を目指しています。

そのため、具体的には、クラウド利用の拡大、アジャイル開発の増加、生成AIの実用化への対応、特に、この3分野の技術に精通したエンジニアの育成に取り組んでいます。

また、現在は開発工程の受託業務が中心ですが、

さらなる成長のため、お客様の立場で新しいビジネスを考える上流工程への進出にも挑戦しているところです。

新たな収益源となるビジネスの創出:

文教ツールの高度化需要がビジネスチャンス

システム開発に加えて、当社の独自製品分野も強化して、成長を牽引していきます。文教分野の主力製品である『V-Boot』(PC運用システム)や『alpha Vclass』(授業支援システム)の拡販に加えて、VRのヘッドセットを活用した教育支援システムの構築にも取り組んでいます。少子高齢化により文教分野の事業環境も大きく変化しておりますが、高度なツールへの需要は高まっており、成長分野と位置付け取り組んでいます。

サステナビリティマネジメントの強化:

人的資本の強化に取り組む

当社は、プロパー主義の開発体制を強みとしており、自社のエンジニアを戦力化して成長してきたため、人材育成は根源的な成長戦略といえます。クラウド利用の拡大、アジャイル開発の増加、生成AIの実用化という新たな環境に対応して成長するためには、人的資本の強化が最優先です。そのため、当社は最近、新たにタレントマネジメントシステムを導入しました。これは人材に関する情報を一元管理して全社で共有する

システムで、個人の能力育成、成長度合いの把握、社員のモチベーション向上に活用できます。これを社内のコミュニケーションツールとして積極的に活用し、当社の人的資本の強化につなげていきます。

Q

4

株主の皆様メッセージをお願いします。

「実現する力」を強化して、 社会インフラの発展に貢献する

当社の強みは、先述の通り、自社のエンジニアを育成して構築したプロパー主義の開発体制によって、ど

のようなプロジェクトでも実現する力を有するところです。開発経験を通じ、あらゆる工程のノウハウを社内に蓄積しているため、自己完結できる能力があり、お客様と長期的に強固な取引関係を構築できています。

今後は、生成AIなども駆使してさらに業務効率を高め、また、上流工程への進出に挑戦し、お客様からの信頼を一層強固にしていく所存です。このように着実に強みを強化し、社会インフラの発展に一層貢献していきます。

株主の皆様には引き続き、ご理解・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年12月

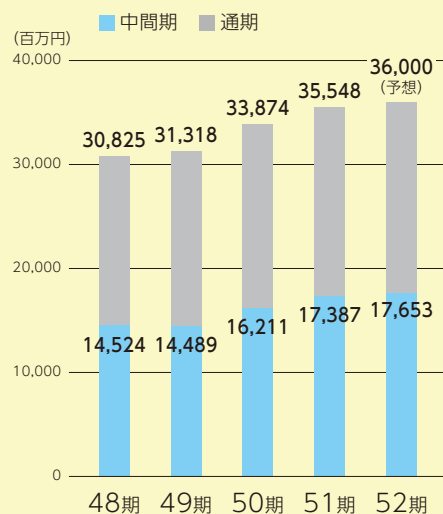


代表取締役社長

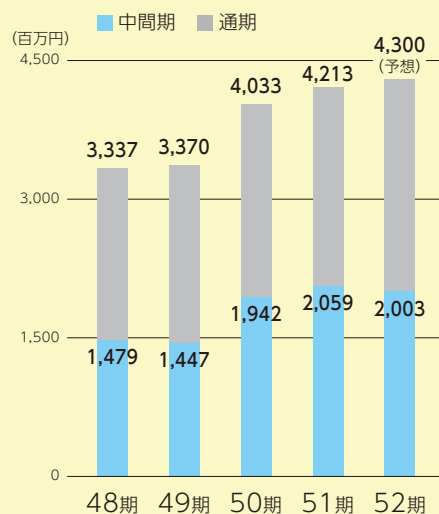
齋藤 潔

事業概況のご報告

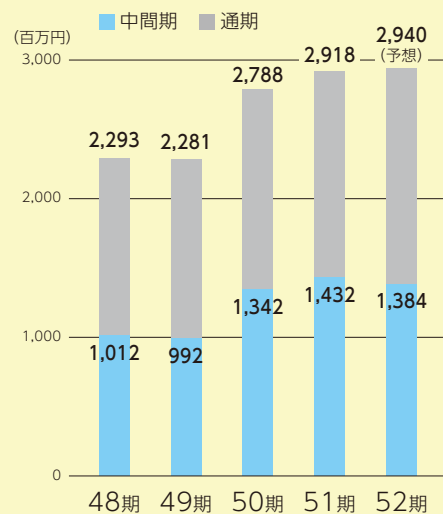
売上高



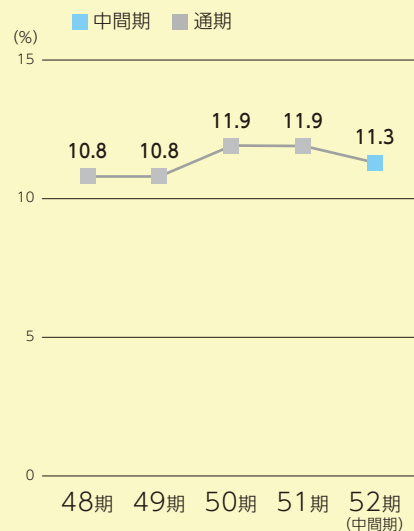
営業利益



当期純利益



売上高営業利益率



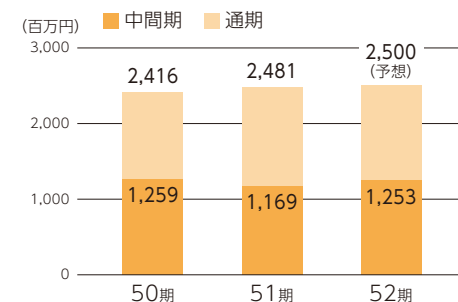
事業区分別の概況 (売上高)

通信システム

ネットワークマネジメント及びモバイルネットワーク関連の売り上げが減少したことにより、売上高は3,828百万円(前年同期比14.0%減)となりました。

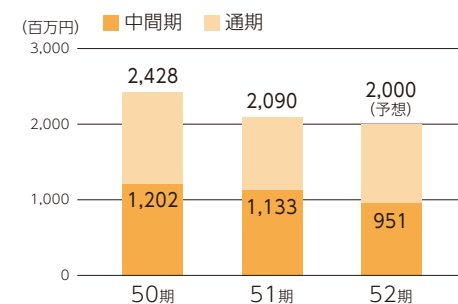
ノード

コアネットワーク(基幹通信網)関連の売り上げが増加したことにより、売上高は1,253百万円(前年同期比7.2%増)となりました。



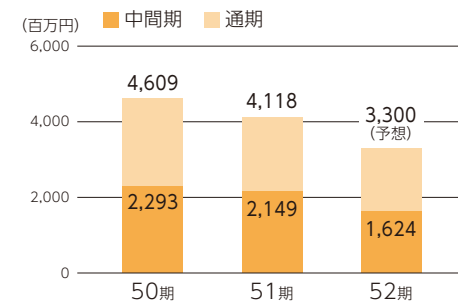
モバイルネットワーク

基地局関連の売り上げが減少したことにより、売上高は951百万円(前年同期比16.1%減)となりました。



ネットワークマネジメント

放送用通信ネットワーク関連の大型案件が収束した影響により、売上高は1,624百万円(前年同期比24.4%減)となりました。

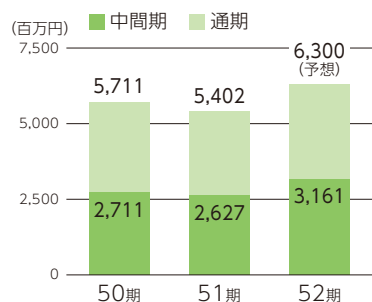


オープンシステム

公共及び情報通信関連の売り上げが増加したことにより、売上高は12,672百万円(前年同期比6.4%増)となりました。

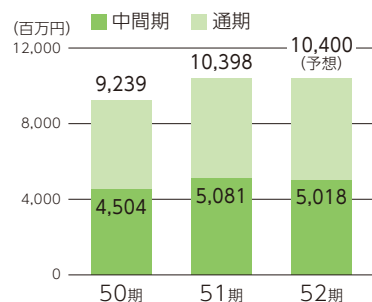
公共

官公庁関連の売り上げが増加したことにより、売上高は3,161百万円(前年同期比20.3%増)となりました。



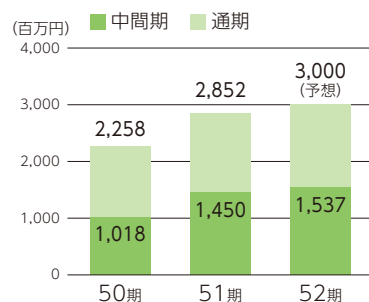
流通・サービス

物流関連の売り上げは増加しましたが、Eコマース関連の売り上げが減少したことにより、売上高は5,018百万円(前年同期比1.2%減)となりました。



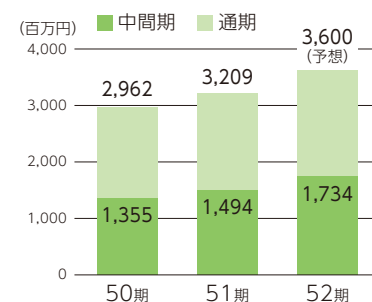
金融

保険関連の売り上げは減少しましたが、キャッシュレス決済システム関連の売り上げが増加したことにより、売上高は1,537百万円(前年同期比6.0%増)となりました。



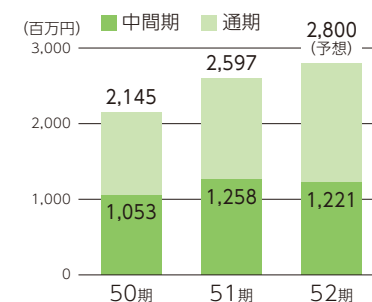
情報通信

DX関連及びサービス基盤関連の売り上げが増加したことにより、売上高は1,734百万円(前年同期比16.0%増)となりました。



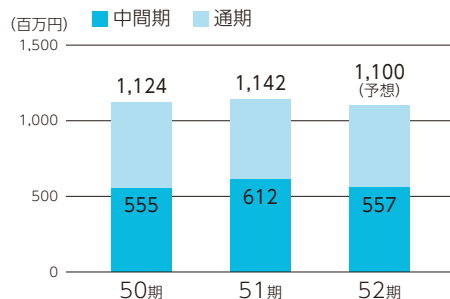
その他

その他の売上高は1,221百万円(前年同期比3.0%減)となりました。



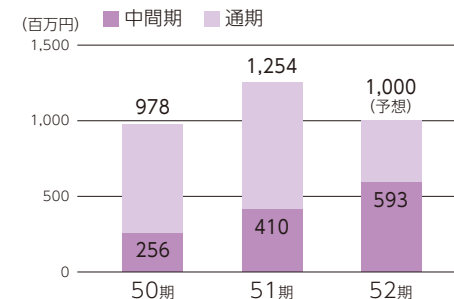
組み込みシステム

家電機器関連の売り上げが減少したことにより、売上高は557百万円(前年同期比8.9%減)となりました。



その他

文教ソリューション関連の売り上げが増加したことにより、売上高は593百万円(前年同期比44.7%増)となりました。



生成AIへの取り組み

今年に入って世界中で注目を集めている生成AI。

当社には「ITシステムの高度化」と「システム開発力の強化」の2点で影響があると考えています。

AI活用が前提のシステム開発が主流となっていくことを見据え、AIに関する取り組みを進めています。

当社への影響

生成AIによる



ITシステムの高度化

- 様々な業種や業務で生成AIを活用したITシステムの高度化が進展
- システム化需要は今後ますます拡大



生成AIによる



システム開発力の強化

ソフトウェア開発プロセスにおける優れた開発ツールとして活用し、システム開発の生産性を向上

企画・提案

設計

コーディング

試験

AIで発展するIT市場で、開発力を高めてさらなる成長へ

当社の取り組み

取り組みステップ

変化への対応力を高め、
本業における成長の原動力に

業務で安全に使う準備

リスク整理
利用環境整備

今上期



業務で安全に使う準備

- クラウドサービスを活用した生成AIの利用環境を整備し、社内向けに運用を開始
- 利用者全員を対象に、生成AIリテラシー教育を実施

自社ソリューションの高度化

システム開発における
活用ノウハウの蓄積

開發生産性の向上
サービス高度化

今期～



活用ノウハウの蓄積

- 業務での活用シーンを想定した生成AIの利用・評価を開始
- プログラムコード生成専用ツールの評価・検証を開始

新たな価値の創出へ

成長モデルの確立



自社ソリューションの
高度化

- AIモデルの調査・研究
- 社内情報をAIで安全に活用するシステム(RAG※)の調査・研究
- 文教市場向け新商品への適用検討

※RAG (Retrieval Augmented Generation) : 検索機能を組み合わせることで、AIモデルを再トレーニングすることなく生成の質を向上させる手法

教育の質の向上を目指した「xR教育支援システム」

当社は文教市場で蓄積したノウハウとxRなどの新技術を組み合わせた研究開発を通して、次世代の教育を支えるソリューション化を目指しています。

文教市場 の状況

- デジタル人材、高度専門人材の育成への期待
- 各大学が特色や強みを活かした改革を推進
- DX化の教育分野への広がりによる
学生のデータや新たな教育方法の活用

研究開発 の狙い

- VRを活用した新たな教育方法に着目
- PC教室向け授業支援システム(alpha Vclass)で
蓄積した技術を応用
- 既存顧客である大学の実習用途でノウハウを蓄積して、
産業分野の研修用途へ展開予定

システム概要

簡単に動画や静止画の教材を作成できる教材作成機能や、学生が視聴中の画面を一覧化して個々の進み具合を確認できる一覧表示機能などにより、教員が行う実習をサポートするシステムを試作しました。

今後の展望

試作したシステムを文教やVR関連の展示会に参考出品し、興味を示す大学などで試用していただいた結果、好評を得ています。収集した要望をシステムにフィードバックし、競争力のある付加価値の向上とともに産業分野への展開にも取り組んでまいります。

VR：ゴーグル型の視聴機器を利用して、映像空間にいるかのような疑似体験をもたらす技術。ゲーム分野だけでなく、教育や産業分野で応用例が増え始め、機器の小型化に伴い普及が見込まれている。

xR：VRや現実の映像空間に付加情報を表示するAR（拡張現実）などと合わせて、現実にはないものを知覚できる技術の総称。

システムの利用イメージ

事前準備



教材作成

システムにログインし、教材を作成します。



教材の事前ダウンロード

実習の前に、事前にVRゴーグルに教材をダウンロードします。

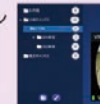


実習



端末グループ選択

システムにログインし、端末一覧から任意の端末グループを選択します。



教材選択

VRゴーグルを装着し、VRアプリを起動して視聴する教材を選択します。



実習



選択した端末グループの画面が一覧表示されます。学生が視聴中の場合は視聴している画面が表示されます。

トピックス

復興支援の自転車イベント 「ツール・ド・東北」に参加しました

当社は、宮城県仙台市に拠点を構える企業として、被災地の復興と地域活性化に貢献したいという想いから、2019年より自転車イベントの「ツール・ド・東北」にシルバーパートナーとして協賛しています。

今年は9月16日～17日で開催され、当社の有志も快晴の青空の下、ライドイベントに参加しました。

コロナ禍で中止された年もあり、今回が3回目の参加となりますが、毎回、東北の魅力を満喫できるイベントとなっています。

現地では、道路や景色、そして街並みが参加するたびに变化しており、復興が徐々に着実に進んでいることを感じることができます。本イベントでは、その復興の進展を間近に感じながら美しい海岸線を自転車で走り、エメラルドグリーンの海を眺めながら、エイドステーションで現地の名産品を味わうことができます。

「ツール・ド・東北」では、地元の方々からは「来てくれてありがとう!」、ライダーからは「応援してくれてありがとう!」という感謝の言葉が飛び交います。その光景は、「ツール・ド・東北」のキャッチコピーである「**応援してたら、応援されてた**」という言葉そのままに映し出されます。

震災からの復興活動は、これからも続きます。

当社は、今後も技術と人材を活かし、東北の未来に貢献してまいります。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話: 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.alpha.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- ご注意
- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社アルファシステムズ

〒211-0053
神奈川県川崎市中原区上小田中6丁目6番1号
本社(中原テクノセンター1号館)
電話: 044-733-4111(代表) Fax: 044-739-1100
<https://www.alpha.co.jp/>

